

米国のカット野菜などの生産・消費動向と契約取引

平成27年11月
農畜産業振興機構
調査情報部 平石 康久

目次

1. 野菜生産
2. 野菜消費
3. カット野菜などの契約取引
4. 個別事例

1 野菜生産

日米の野菜生産の比較

	米国 (2012年)	日本 (2010年)
野菜収穫農家数(1000戸)	72	435
野菜収穫面積(1000ha)	1,818	548
1農家当たり平均野菜収穫面積 (ha)	25.2	1.3

資料: USDA/NASS「2012 Census of Agriculture」、
農林水産省「平成22年耕地及び作付面積統計」

注1: 米国はいも類を含む。

2: 日本はえんどう、そらまめ、大豆、いんげん、未成熟とうもろこし
及びばれいしょを含む、作付延べ面積。

品目別生産量の比較

米国の品目別生産量

単位:千トン

品目	生産量
たまねぎ	3,302
結球レタス	2,016
すいか	1,449
トマト	1,237
にんじん	1,151
スイートコーン	1,150
ロメインレタス	1,119
キャベツ	1,014
ブロッコリー	949
セルリー	834

資料: USDA

注: 2014年

日本の品目別生産量

単位:千トン

品目	生産量
だいこん	1,457
キャベツ	1,440
たまねぎ	1,068
はくさい	906
トマト	748
にんじん	604
レタス	579
きゅうり	574
ねぎ	478
すいか	355

資料: 農林水産省「野菜生産出荷統計」

注: 2013年

カリフォルニア州のシェア

(単位:千トン、%)

	品目	全米	カリフォルニア州	割合
生鮮向け	結球レタス	2,016	1,460	72%
	ロメインレタス	1,119	806	72%
	キャベツ	1,014	312	31%
	ブロッコリー	949	913	96%
	セルリー	834	790	95%
	リーフレタス	589	501	85%
加工向け	トマト	13,279	12,710	96%

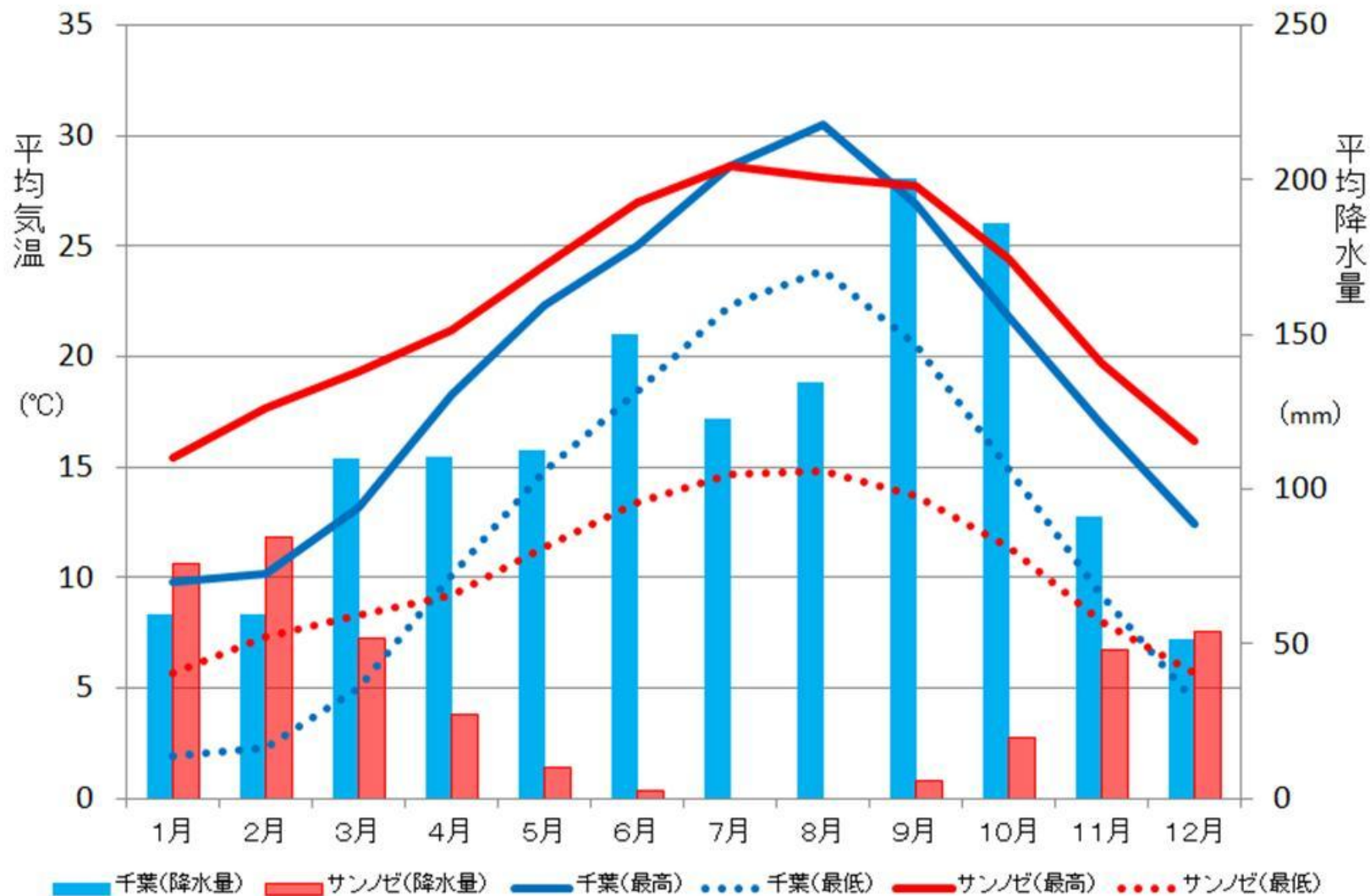
資料: USDA/NASS

注: 2014年

野菜の産地リレー (カリフォルニア州)



気候の比較



米国の野菜栽培

- 密植の状況

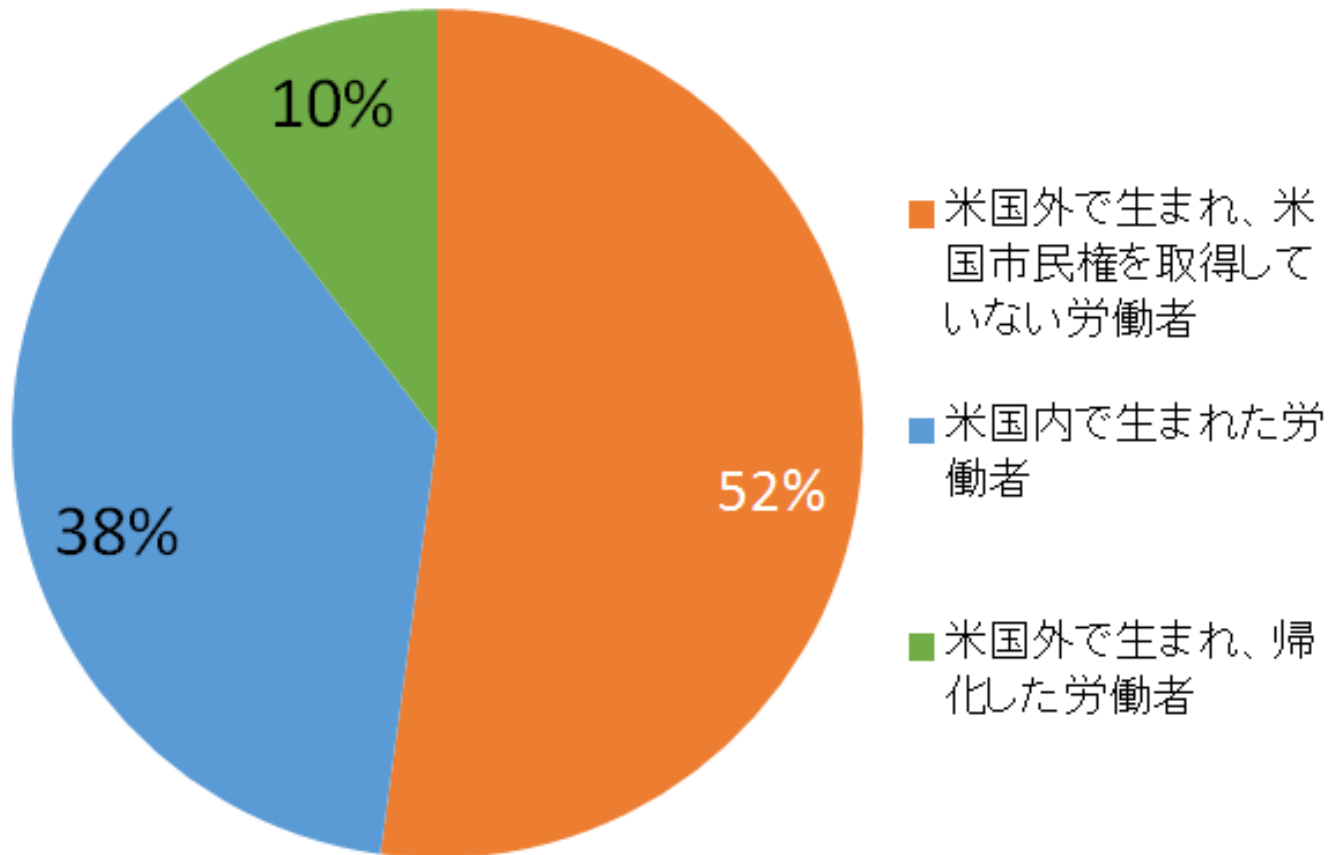


ブロッコリー。株間15cmほど

欠株もみられる



カリフォルニア州農業労働者の 市民権取得状況



資料:カリフォルニア州政府による調査
注:2008年データ



労働者の作業風景

メキシコ人労働者たち



灌漑（CA州野菜ほ場のほぼ100%）



地下水をくみ上げる井戸

スプリンクラーにつながる配管





機械収穫とフィールドパッキング



フィールドパッキング



収穫機→トラックへの積み込み部分



ほ場での箱詰め

ほ場での小売用パッキング



衛生対策

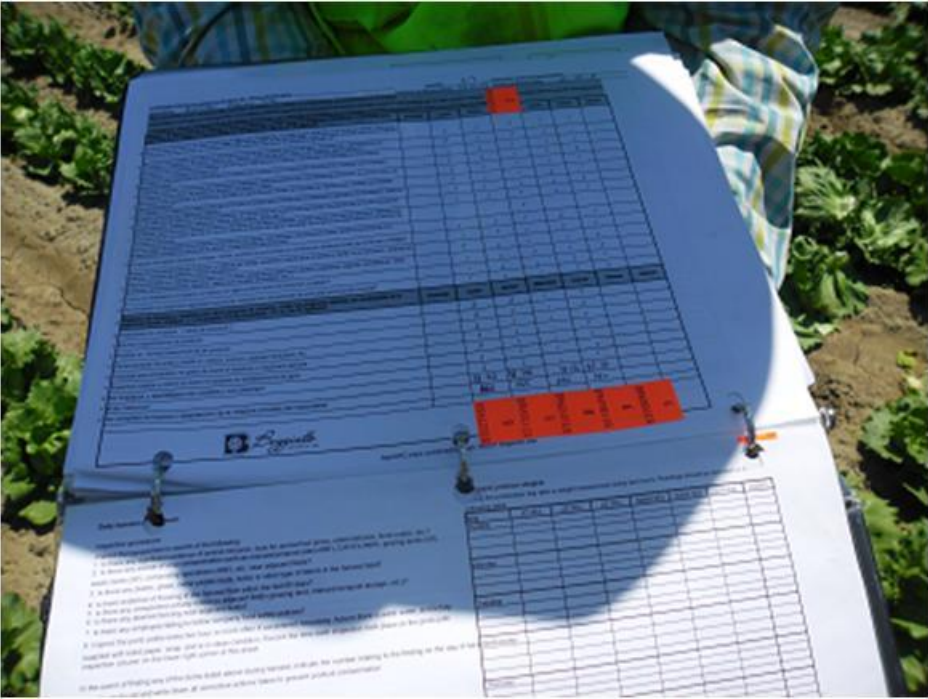
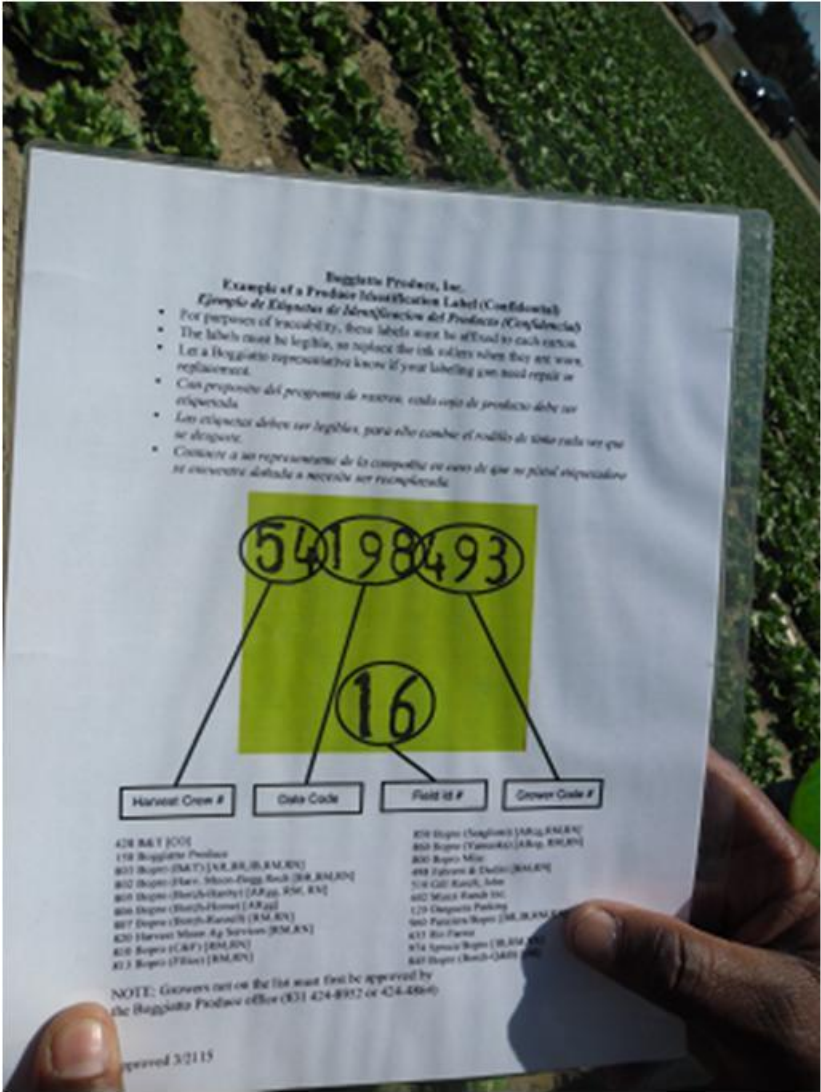


収穫用ナイフと消毒薬



労働者用トイレ。スペイン語による手洗い注意

トレーサビリティの例



ほ場ごとの作業内容確認シート

生産者、収穫日、ほ場番号、
収穫作業責任者のコード



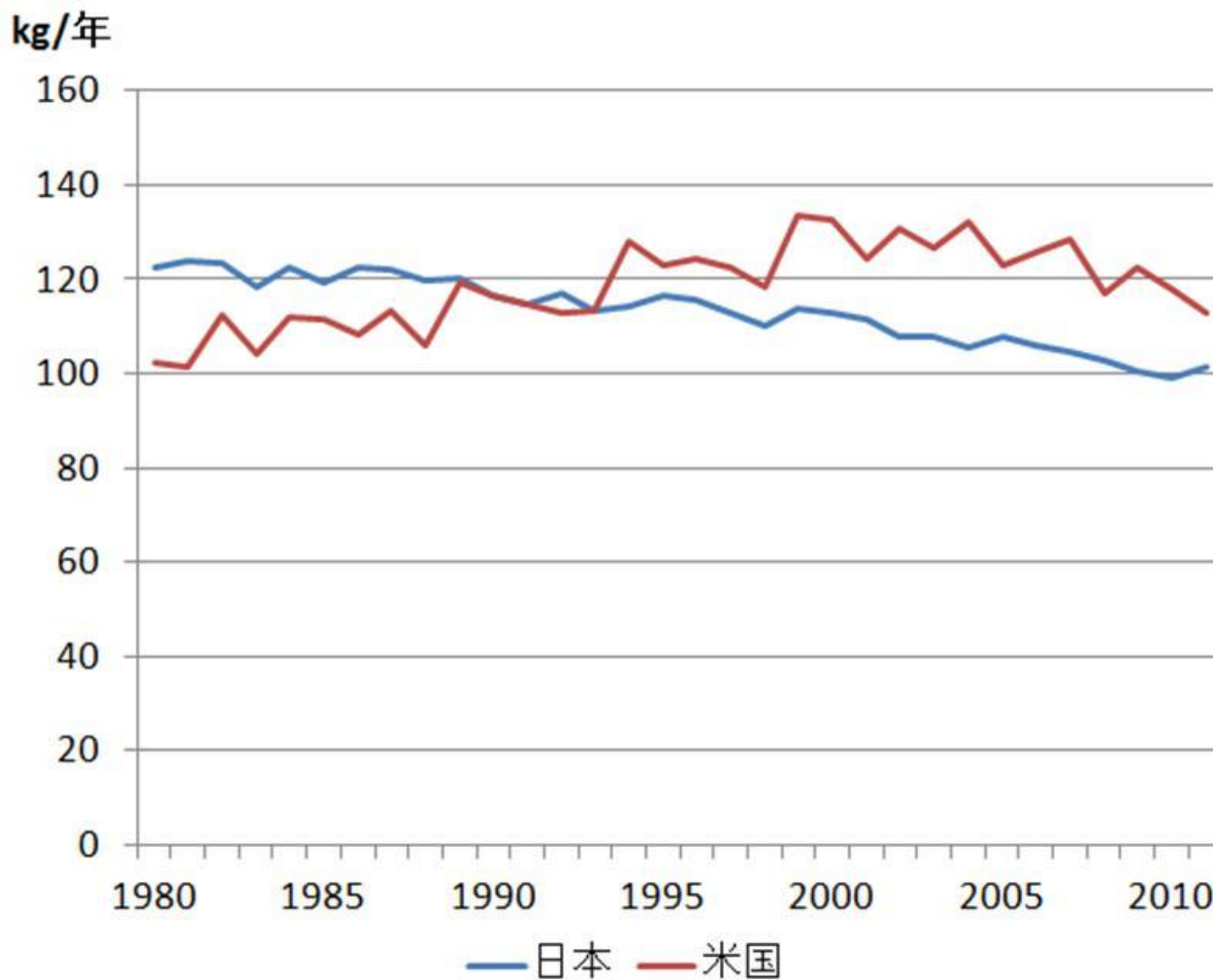
ほ場からそのまま出荷

履歴追跡用シールが貼られた箱



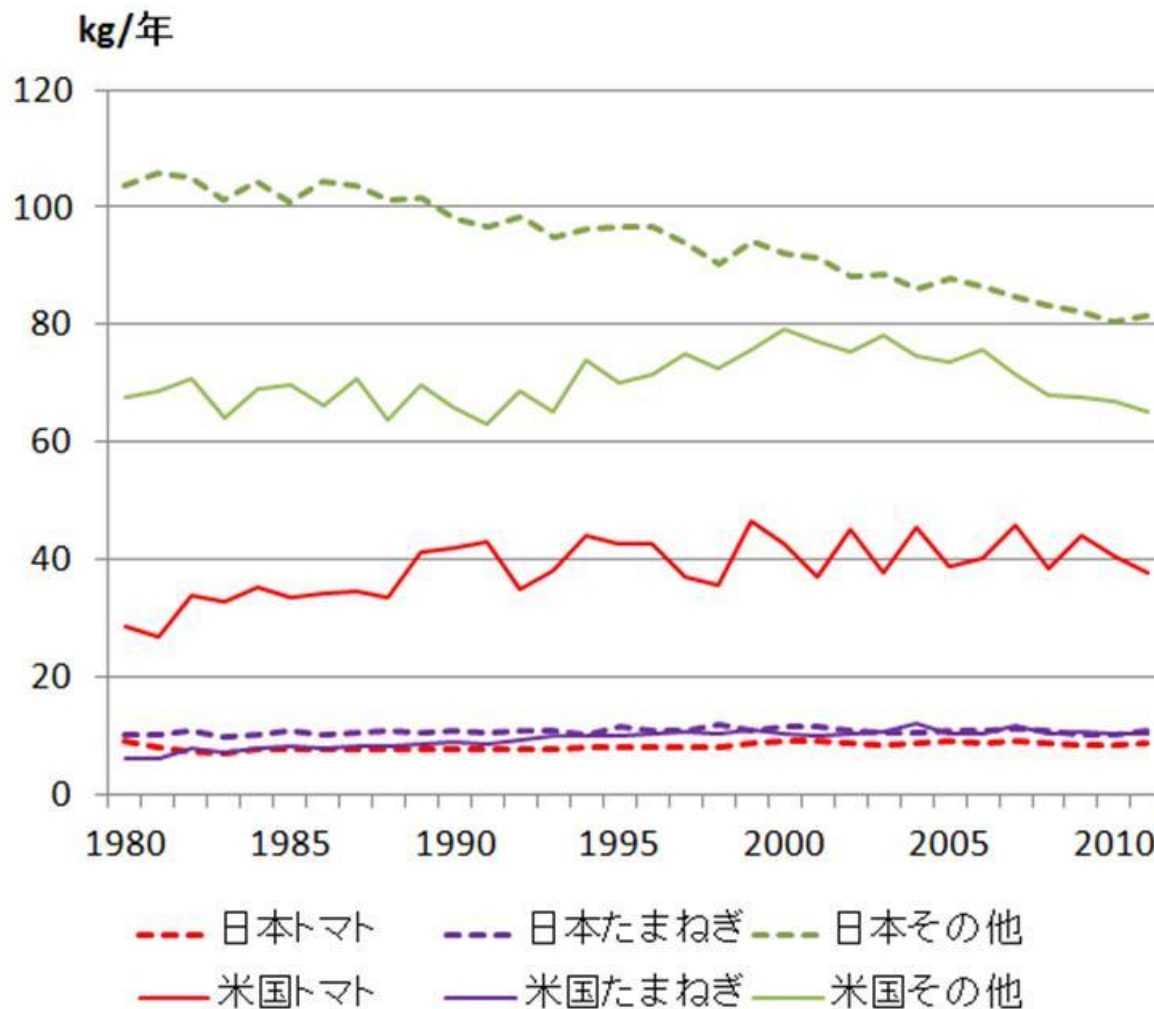
2 野菜消費

年間1人当たり野菜消費量



資料:FAO
注:いも類は除く

主な野菜別1人当たり消費量の推移



資料:FAO

注:いも類は除く

カット野菜の種類 パックドサラダ



ボウルなどにあけて食べる

サイドディッシュ



トレイ



このまま家族で分けて食べる

スナック



調理済み冷凍野菜



電子レンジで温めるとそのままおかずになる

調理済みサラダ



バーベキューパック



バーベキューで使えるよう調理済み

スムージー



ジャーサラダ



カラ－野菜



にんじん



ミニトマト

様々な色どりを楽しむ

エスニック野菜

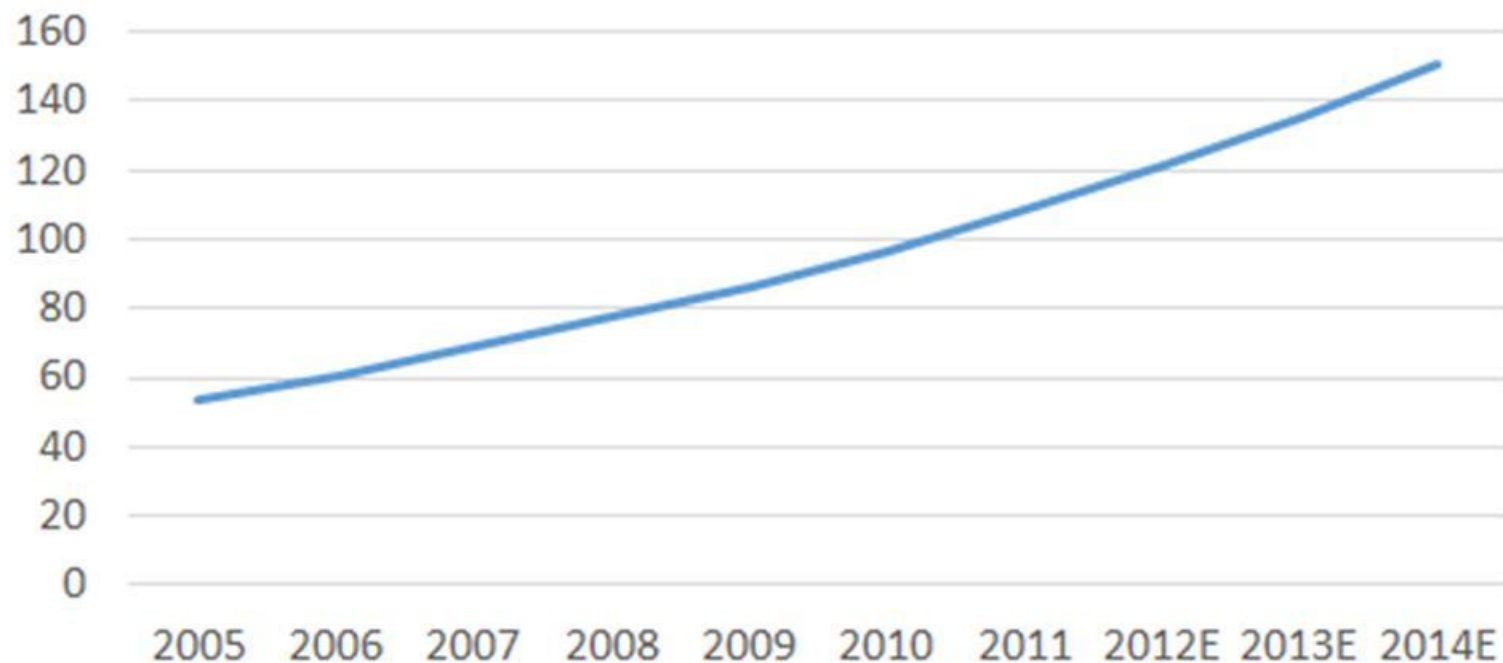


有機野菜



単位:億ドル

有機青果物販売額の推移



資料: USDA

注: 2012年以降は推計値

: 野菜および果実の合計

有機及び慣行栽培による野菜の価格差の例

単位:ドル、%

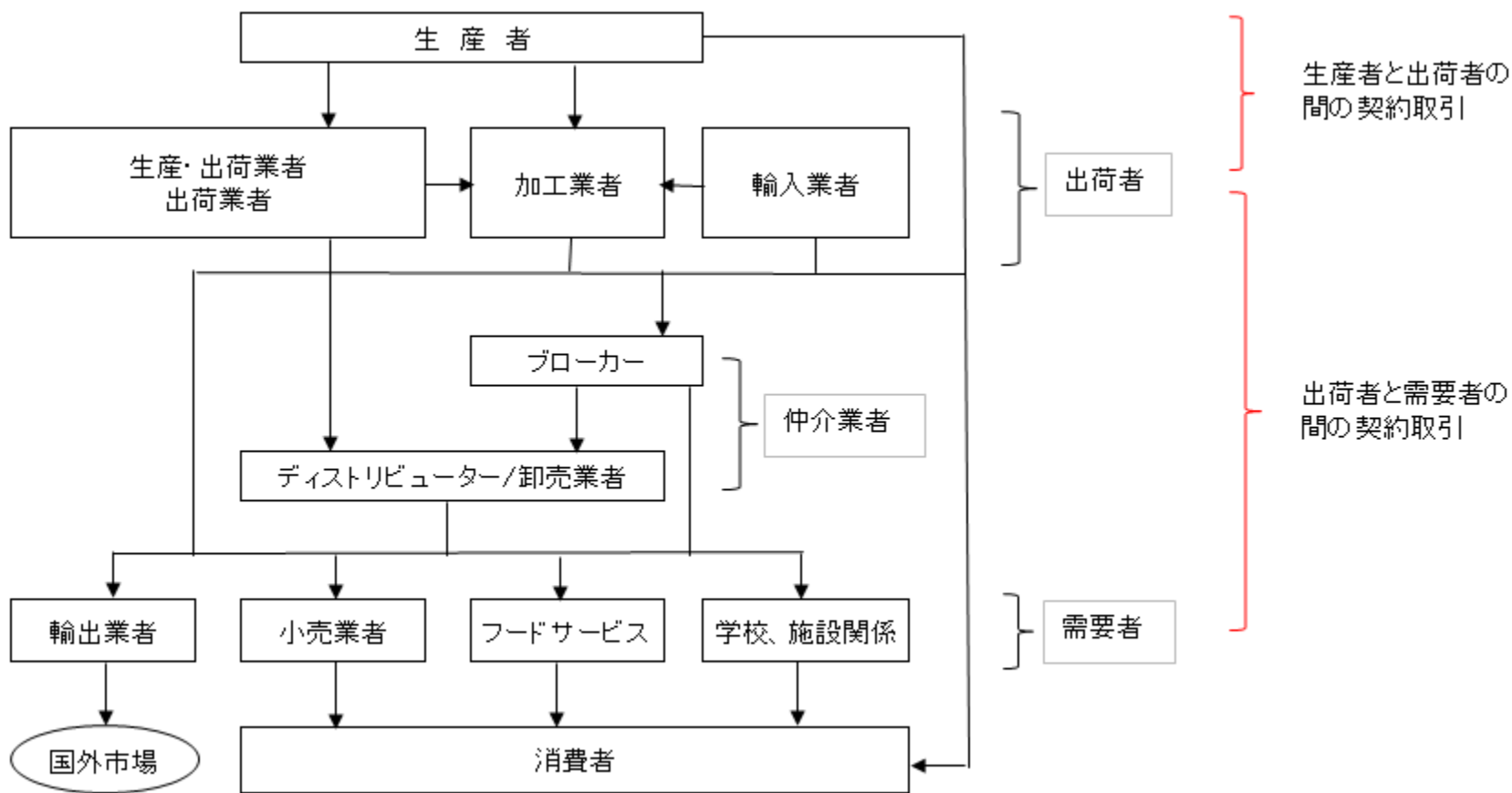
	包装	有機栽培a	慣行栽培b	a/b
キャベツ	45ポンド 詰め、ダンボール	45.67	14.17	322%
にんじん	25ポンド、バラ	24.42	11.41	214%
カリフラワー	12個詰め、ラップ、ダンボール	41.67	23.92	174%
リーフレタス	24個詰め、ダンボール	38.48	25.94	148%
ロメインレタス	24個詰め、ダンボール	43.59	23.01	189%
たまねぎ	40ポンド 詰め、ダンボール	38.39	16.84	228%
ほうれんそう	24束、ダンボール	38.87	23.1	168%
ばれいしょ	50ポンド 詰め、ダンボール、US No.1	45.05	16.93	266%
ミニトマト	12ポンド 詰め、蓋つきプラスチック容器	45.66	18.03	253%
さつまいも	40ポンド 詰め、ダンボール、US No.1	33.98	19.54	174%

資料:USDA

注:アトランタ市場、2013年のデータ

3 カット野菜などの契約取引

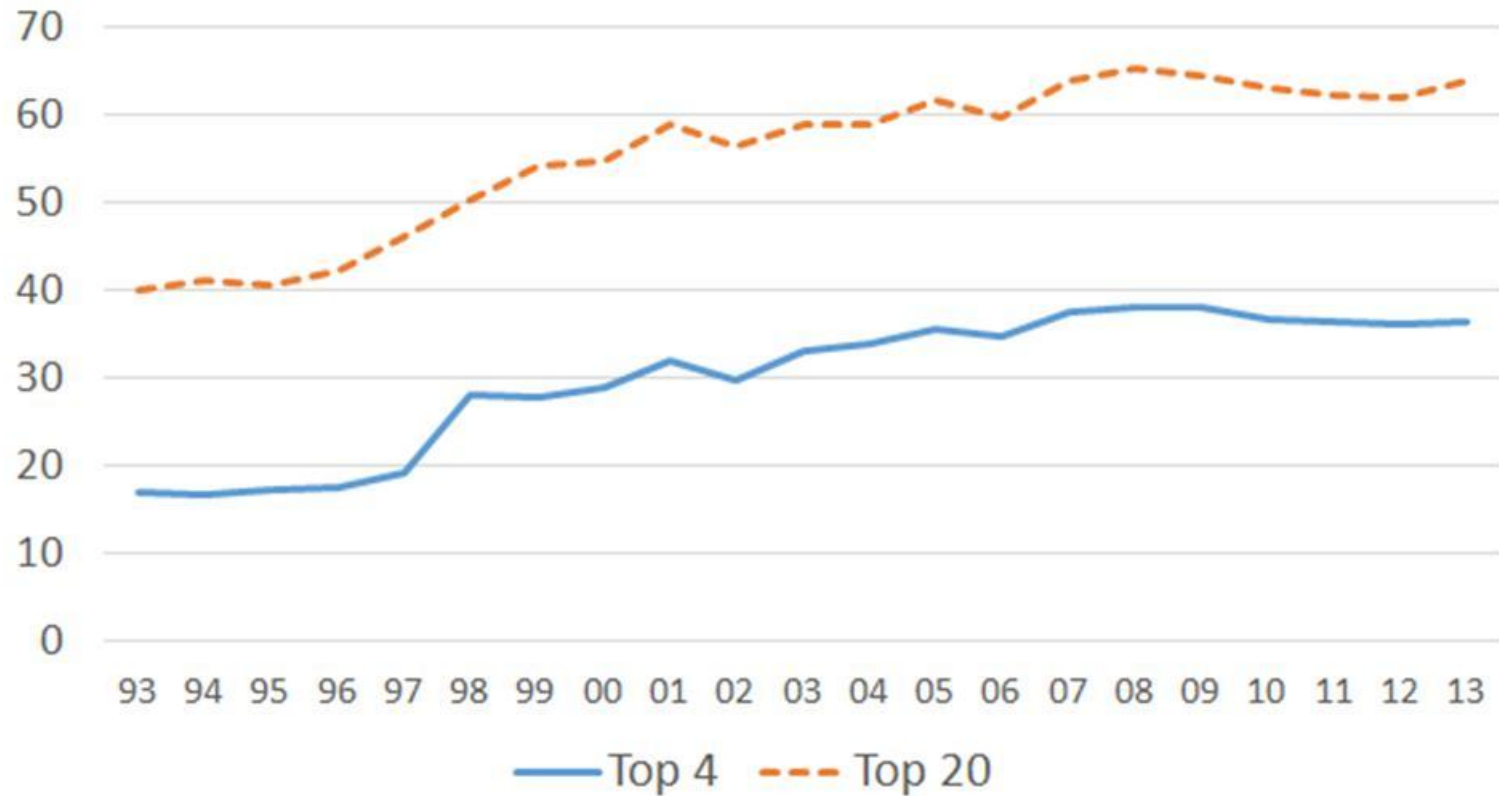
野菜の主要流通ルート



資料: 機構作成

上位小売チェーンが占める割合

単位: %



資料: USDA

契約取引の背景（需要者）

- 一定の品質の野菜を安定して購入
- 年間を通して総合的に利益を確保
- 販促活動を事前決定（オプション付）

契約取引の背景（出荷者）

- 安定した出荷先の確保
- 出荷先との関係を維持、発展
- 安定した販売価格

契約取引の期間

- 短期でも3カ月、6カ月、9カ月を単位
- 長期契約では1年～2年の例
- 訪問先企業(小売)での1年以上の契約取引の例

10%以上	にんじん カット野菜
5%以上	ばれいしょ いちご マッシュルーム トマト
2%以上	結球レタス ピーマン カンタロープメロン リーフレタス

注:比率はその品目の売り上げに占める1年以上の契約取引の割合

契約取引の類型①

出荷者—需要者

- 価格を固定した取引
契約期間中又はシーズンごとに価格を固定
最低購入数量
- FOB価格を利用し、価格に幅を持たした取引
USDAの統計や近隣の取引価格を利用
- 出荷先と品目だけが決まっている取引
- 上記3類型に加えた付帯サービス
第三者からの安全性の認証
需要者固有の品質や包装、商品補充

契約取引の類型②

生産者一出荷者

- 面積契約
全量を出荷者が引き取り
- 数量契約
一定の数量を出荷者が引き取り
- 利益分配方式
販売額から費用を差し引いた利益を折半
- 生産者主導型方式
生産者は収穫などの作業を出荷者に委託
リスクは生産者

契約取引の遂行

- 不足時
 - 前進出荷や他仕向け先の転用
 - 需要者との交渉による出荷数量削減
 - 需要者も同業者や仲介業者から調達
- 過剰時
 - 過剰分の引き取りを需要者に要請
 - 仲介業者へ出荷

4 個別事例

インターネット青果物直販会社

生産者-出荷者の契約(数量契約)

- 2013年創業の小規模会社。複数の農家及び小売店が出資、契約ほ場は2000ha
- 顧客は一般消費者やレストラン。注文後収穫を行い、収穫後2日～3日で配送。Webによる購入
- 配送は一般のサービスを利用。買上げ15ドル未満は、配送料15ドル。15ドル以上は、配送料5ドル
- 余剰野菜はFood Bankへ寄付。不足時は売り切れ表示や、他の野菜で代替
- 同社は生鮮食料品配送の全米市場規模は2014年65億ドルから、2017年に150億ドルになると予想

中小生産出荷業者

出荷者-需要者の契約(価格固定)

- 1907年創業。面積は2000ha。うち1600haが他農家との契約
- 予冷施設(共同所有)や収穫機を保有
- 契約は面積当たり固定支払いで、収穫や販売を同社が責任を持つ形が多い。
- 販売価格は同社の提示価格(生産コストベース)
- 雇用者はシーズン契約だが、毎年同じ労働者を雇用している。

- 主力品目はロメインレタスとミニ結球レタスといった差別化商品
- 安全性の証明として、リーフレタスアグリーメントに加入
- 顧客はほとんどが食品産業（レストラン、給食等）。顧客との契約期間は半年、1年、2年が代表的
- 顧客から出荷Boxの大きさを指定、満杯詰め。ただし小売向けは、6パック分の数量を調整。フィールドパッキングを行い、真空予冷し出荷。



ミニ結球レタス



ロメインレタス

大手共同仕入会社（A社）

出荷者-需要者の契約（価格固定）

- 会員は49社（小売33社、卸売11社など）。会員の売上（1600億ドル）のうち、140億ドル分の仕入れを担当。購買一本化による購買力強化、品質や安全性の保証
- 青果物のサプライヤーは250社超
- 契約取引の期間は1年以上。価格はFOBベースで年間固定が多いが一部シーズン別価格
- 輸送手配は同社。費用は会員に請求
- 生産過剰時は特売、不作時は契約価格より高い価格を提示し、調達。

中小スーパー（B社）

出荷者-需要者の取引

- 1937年創業。5店舗で従業員は900人
- 総菜の月間予定表を発表。材料は売れ残りではなく、専用の材料を使用。キッズ向けや、パーティーメニューも用意している。
- 調達は複数の仲買から週5回。バナナは3年間、モモやネクタリンはシーズン一定価格の調達だが、他はその日のオファー価格。地元生産者からの調達は店が直接行う。前日までの売れ行きと在庫量を基に発注量を決定
- 納入は仲買が行う。納入費用は仲買の販売価格に含まれている。
- カット野菜は店舗で加工

中小農家（日本野菜生産）C氏

出荷者-需要者の取引

- 米国東部の日本野菜の専業農家。日本人経営者で32年前から就農。
- メキシカン常雇3名、季節労働数名。
- 取引先の大手日系スーパーが倒産。その後、後継企業や問屋、魚屋等に販売を拡大。
- 23haのうち、12haで日本野菜数十品目を栽培。ハウスは無加温6棟。去年はダイコン、今年はねぎの栽培が多い。売れ筋はししとう、ねぎ、金時にんじん。価格は農家提示価格
- 競合相手は韓国系農家やカリフォルニア州

ご清聴ありがとうございました。

※本情報は、情報提供を目的とするものであり、取引・投資判断の基礎とすることを目的としていません。

本資料の正確性の確認等は、各個人の責任と判断でお願いします。
提供した情報の利用に関連して、万が一、不利益が被る事態等が生じたとしても、ALICは一切の責任を負いません。

資料の無断転用はご遠慮ください